

平成 22 年 5 月 23 日現在

研究種目：基盤研究(B)(海外)

研究期間：2007 ～2009

課題番号：19402045

研究課題名(和文) 保育の質と第三者評価に関する日韓比較研究

研究課題名(英文) “A comparative Study on Quality and Accreditation in Early Childhood Education and Care in JAPAN and KOREA”

研究代表者

丹羽 孝 (NIWA TAKASHI)

名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・教授

研究者番号：10113325

研究成果の概要(和文)：研究成果の第一は、2007年から実施され始めた韓国の幼稚園・保育施設に対する第三者評価政策の内容と実際について、現地調査によって具体的に明らかにしたことである。第二は、本研究の遂行過程で日本保育学会と韓国幼児教育学会・韓国乳幼児保育学会との研究交流協定の締結と具体化に貢献したことにある。

研究成果の概要(英文)：The Korean Accreditation System for Kindergarten and Child Care Center was clarified concretely. Concerning this research.

The revised “National Curriculum for KINDERGARTEN”, and the process of establishment of “Standard Curriculum for Nursery Care”, and their contents were examined in detail.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2008年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
年度			
総計	6,100,000	1,830,000	7,930,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：日韓比較研究、幼児教育、第三者評価、評価認証制度、Accreditation、保育の質

1. 研究開始当初の背景

(1)日本の幼児教育界において、韓国の幼児教育に関心が向けられ始めたのは、1997年2月日本保育学会の50周年記念事業として出版された『諸外国における保育の現状と課題』(世界文化社)に丹羽と、パクヤン教授が韓国について執筆したことが契機であった。その後、丹羽は日韓文化交流基金のフェローとして梨花女子大学李基淑教授研究室に留学し、本格的な韓国幼児教育研究を開始した。また、2001年には李基淑教授(当時韓国幼児教育学

会長)を本学客員教授として短期招聘し、日本の研究者たちとの交流が飛躍的に拡大した。

(2)2001年には韓国そして日本を対象とする幼児教育比較研究が、科学研究費の支援を受けることとなった(「中国・韓国・日本における育児の社会的支援と乳幼児の権利保障に関する調査研究」)。この研究支援により、初めて三カ国の幼児教育界の代表者による研究交流が実現したのは、とても大きな成果だった。

(3)2003年には日本福祉大学 21 世紀 COE プログラム(福祉社会開発の政策科学形成へのアジア拠点)が始まり、その中に韓国子育て支援研究班(勅使千鶴、亀谷和史、丹羽孝)が設置された。共同研究のメンバーとして丹羽も参加し、『韓国の保育・幼児教育と子育ての社会的支援』(2007,新読書社)他、多くの研究成果を公刊した。

こうした背景のもとで形成された私たちと韓国幼児教育界の研究者ネットワークは、とても多くの成果を生み出すこととなった。

2. 研究の目的

(1) 韓国国家水準教育課程に関する研究

第一の研究目的は韓国幼児教育の質研究の基本としての、国家水準教育課程の内容とその機能の研究である。幼稚園教育課程に関しては 2006 年度末に、『2007 年幼稚園教育課程』が改訂された。その改訂背景、改訂過程及び内容等について詳細な検討を行うこととした。

(2)標準保育課程の研究

韓国ではこれまで保育施設に関する国家水準教育課程は制定されてこなかった。そして、2005 年になって、初めて『標準保育課程』という名称の、国家水準保育課程を制定したのだった。その内容や特徴、幼稚園教育課程との関係及び実施過程での諸問題について、具体的に明らかにすることが要請されている。

(3)大学附属幼稚園プログラム研究

韓国では国家水準教育課程の具体化の過程において、幼稚園教員養成課程を有する大学の附属幼稚園の果たしている役割は非常に大きい。そして近年、韓国幼児教育学会の『韓国幼児教育のアイデンティティ』探求の一環として、大学附属幼稚園教育課程比較研究が始められることになった。本研究ではそうした動向を視野に入れながら梨花女子大学、徳成女子大学、中央大学、ソウル女子大学、延世大学、生活指導研究院及び釜山大学附属オリニジップの研究を行う。

(4)第三者評価制度研究

日本でも幼稚園や保育所に対する第三者評価制度が導入され、実施されてはいる。しかし、評価機関の質、インスペクターの質、評価基準の問題、等々課題は山積している。しかるに韓国では 2000 年以來着実な研究が継続され、2006 年度から本格実施されたのだが、予想を超えて、きわめて大きな成果を上げていることが知られている。本研究では政府水準の第三者評価政策、地方水準の実施現況等を現地調査を踏まえて、詳細に明らか

にし、もって日本の第三者評価問題の発展に役立てたいと考える。

3. 研究の方法

(1)2007 年度：保育の質に関する調査研究

本計画では①第 7 次幼稚園教育課程に関する調査研究、②保育施設に関する『標準保育課程』の成立過程、特徴等の研究を行うこととした。幼稚園教育課程研究は関係者である韓国幼児教育学会の研究者(ムンミョク会長他多数)及び教育科学部関係者へのインタビュー等による。標準保育課程については作成責任者である金明順教授他研究者たちへのヒヤリング及び、女性家族部保育課長等の政府関係者へのインタビューによる。

(2)2008 年度：大学附属幼児教育機関の教育課程研究

対象である梨花女子大学附属幼稚園および付設オリニジップ、中央大学附属幼稚園、延世大学附属生活指導研究院、徳成女子大学附属幼稚園、ソウル女子大学附属幼稚園および付設オリニジップ及び釜山大学附属付設オリニジップを対象とし、現地調査及び関係者(園長、園監、指導教授等)へのヒヤリングによる。

(3)2009 年度：第三者評価制度研究

1)保育施設に関する評価認証制度の研究
評価認証制度の内容及び特徴、実施現況とその成果等を明らかにするために、政府担当機関である評価認証事務局を訪問調査する。その後でソウル市、キョンギ道、全羅南道等の地域の実態調査をおこなう。

2)幼稚園に対する第三者評価研究

幼稚園の第三者評価に関しては、保育施設ほど活発ではない事がわかっている。そこで、韓国における幼稚園第三者評価の中心的役割を担っている韓国幼児教育学会歴代会長にヒヤリングし、現状の正確な把握に努める。

3)上記調査研究を踏まえて、日本の第三者評価について調査研究し、比較考察する。

4. 研究成果

(1)保育の質に関する研究の進展

1980 年代以後の韓国幼児教育界にあつては、それまでの量的拡大政策が一定の成果を得たと判断され、以後、保育の質の向上が幼児教育政策のキーワードとなつていった。2004 年に開催された韓国幼児教育学会主催の国際学術大会は、その象徴的な出来事の一つであつた。

本研究では、その時点での韓国幼児教育学会会長であつた文美玉ソウル女子大学校教授の研究論文を中心に、韓国幼児教育学会での保育の質に関する資料収集を行うと共に、その内容分析を行った。その成果の一

部は『保育の研究』(No. 22:「韓国幼児教育との出会いと発展に期待すること」)に発表した。

また本研究主題に関わって梨花女子大学、中央大学、ソウル女子大学、公州大学等を訪れ、従来は明らかでなかったカリキュラムや実践の詳細について明らかにした。この水準の詳細な研究はこれまではなかった物である。その成果の一部は『研究成果報告書』(2010. 3:丹羽孝編)に収録した。

(2) 韓国幼稚園教育課程の研究

本研究が行われている間に、韓国では新しい幼稚園ナショナルカリキュラムが改訂され、話題となった。私たちはこの好機を捕らえて、その中心人物であるムンミョク教授を日本保育学会第61回大会(名市大大会)に招聘し、日本保育学会と韓国幼児教育学会学術交流の具体化に位置づけ、招待講演会を開催した。また、2008年には金英玉全南大学校教授を招聘し、本研究メンバー主催で国際シンポジウムを開催し、大きな成果を得た。その報告内容は、前掲『研究報告書』に収録した。

(3) 『標準保育課程』の研究

幼稚園に関する国家水準教育課程の改訂も、韓国幼児教育界にあつては大変大きな出来事であったが、韓国初の保育施設に関するナショナルカリキュラムの策定作業も、また大きな出来事であった。その教育課程は韓国女性家族部が主管し『標準保育課程』と命名された。私たちは当初からこの作業の代表責任者である金明順延世大学校教授の支援を得て、その詳細な情報を入手してきた。そして標準保育課程に関する研究の一部は、丹羽が「標準保育課程制定の意義とその特徴」(『保育の研究』No. 22, 2008)へ発表した。また、2008年には金明准教授をお招きし、本研究主催の国際シンポジウムを開催し、多くの研究者が参加した。

(4) 日韓幼児教育研究交流への貢献

李基淑元韓国幼児教育学会会長が本学客員教授として来日されて以後、教授の援助のもと、日本と韓国の幼児教育研究者交流が大いに活性化された。そして韓国幼児教育学会と日本保育学会との研究交流協定締結の話が生まれ、議論される様になった。いくつかの紆余曲折はあったが、結果的に本研究メンバーである勅使千鶴と丹羽が日本保育学会国際交流委員となり、日本保育学会としても積極的に交流協定締結とその具体化に取り組むこととなった。

折しも第61回日本保育学会は2008年5月、名市大を会場とし、丹羽が大会準備委員長として開催された。この機会をとらえて私たちはムンミョク前会長の記念講演会開催、韓国

幼児教育学会会員の保育学会参加推進、チョンギョン韓国幼児教育学会長招聘を実現し、交流は具体化した。また、これにピョガプス韓国乳幼児保育学会長及び副会長も参加し、韓国側の交流の輪は一層広まった。これら一連の交流行事に関する本研究費支援は、まさに歴史的成果を生んだと評価できる。

(5) 三者評価に関する調査研究

① 国内における第三者評価研究

本研究の開始に際して私たちは、韓国の第三者評価制度を見ていくうえでも、日本における第三者評価制度の現状と課題を、研究的に理解しておく必要性を自覚していた。そこで、2007年にこの分野での日本の第一人者でいらっしゃる櫻井慶一文教大教授を招聘し、公開研究会を開催し、学習した。その内容は前掲『研究成果報告書』に納めている。この機会に私たちは日本の幼稚園・保育所に対する第三者評価制度の不十分さをかなり具体的に理解したといえる。その後、幼稚園や保育所に関する評価実態を知るにつれて、日本の第三者評価制度の抱えている課題の多さを、痛感する様になった。

② 韓国における第三者評価制度研究

韓国保育施設における第三者評価制度は、2004年から始まった。その実施主体は日本とは異なり、政府の女性家族部に設置された保育施設評価認証事務局であった。私たちは第三者評価制度研究を始めるにあたり、この評価認証事務局を訪問調査し、担当官から詳細な情報と資料を入手した。改めて当局の暖かい配慮に感謝する次第である。

この保育施設に関する評価認証の研究成果については丹羽(「育の質第三者評価研究」(『市大人間文化研究』No. 12)、張英姫(「韓国における第三者評価研究」: 前掲『報告書』所収)に詳しい。

(6) 韓国におけるプロジェクトアプローチに関する研究

教育内容・方法分野における韓国幼児教育界の関心事の一つは「レジジョアプローチ」に関することである。韓国はスウェーデンと共にレジジョアプローチ研究に最も熱心な国なのである。

保育方法の改革は、保育の質の問題に密接にリンクしていることであり、私たちもこの動向に大いに関心を持った。そこで私たちはその中心人物である中央大学イヨンソップ教授と、韓国レジジョアプローチ研究所長オムンジャ博士に接触し、知識と資料を入手した。また合わせて、彼らが指導している幼稚園・保育所への訪問調査も行った。

また、先に挙げた日本保育学会61回大会では「プロジェクトアプローチ研究」を課題研究として設定し、イヨンソップ教授を招聘

し、研究交流を行った。そして、2009年4月にはオムンジャ博士を招聘し、研究メンバー主催の国際シンポジウムを開催し、盛況だった。この会でのオムンジャ博士の講演記録は、前掲『報告書』に納めてある。

(7)生態幼児教育に関する調査研究

韓国幼児教育界におけるもう一つの話題は、釜山大学校 林再澤教授の指導の下、急速な展開を見せている生態幼児教育学の動きである。この思想は、従来の韓国幼児教育の理論がアメリカやヨーロッパ及び日本等の教育思想の移植的色彩の強さに対しての自己批判的な動きの中で、韓国独自の幼児教育の理論と方法を創出しようという努力の中で展開されてきている理論である。

「生態幼児教育論」は、1990年代後半に林再澤教授によって提唱された保育・幼児教育の理論である。自然との共生の強調、散歩の重視、韓国伝統文化の尊重、有機農作業の尊重等を含むこの思想は、「生態幼児教育学会」を構成するほどの勢いである。詳細は林再澤『生態幼児教育概論』(良書院、2005)に詳しい。また、釜山大学オリニジップはその実験保育施設となっている。そのカリキュラムについては前掲報告書に収めてある。参考にしてくだされば大変ありがたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

- ① 勅使千鶴、「韓国の幼稚園教師養成及び現職教育の現状と課題」、日本福祉大学子ども発達学論集、査読なし、第 2 号、2010,pp33-52
- ② 丹羽孝「韓国幼児教育における第三者評価に関する研究」、名市大人間文化研究、No.12、査読なし、2010,pp101-112
- ③ 勅使千鶴、「韓国における保育機関の公共性と保育の質」、日本福祉大学子ども発達学論集、2009,pp25-43、査読なし
- ④ 丹羽孝、「韓国幼児教育との出会いと発展に期待する」、『保育研究所：保育の研究』、査読あり 2008, pp1-13
- ⑤ 丹羽孝、「標準保育課程制定の意義とその特徴」、『保育研究所：保育の研究』、査読あり、2008,pp79-85
- ⑥ Takeomi, Akimaru, Takashi Niwa, Chizu Teshi、“A Survey of the Knowledge and Use of Preschool Teachers in Japan”、“JOURNAL OF EDUCATIONAL STUDIES” (EHA Womans University)、Cleaning、2007, pp223-245、査読あり

[学会発表] (計 10 件)

- ① 宍戸健夫、「新時代の幼児教育をどのように考えるか」、日本ベスタロッチ・フレイベル学会記念シンポジウム、第 26 回大会、2009.9.13、兵庫教育大学
- ② 丹羽孝、宍戸健夫、勅使千鶴、亀谷和史、「保育の質と第三者評価に関する日韓比較研究」、日本保育学会第 62 回大会、2009.5.17、千葉大学
- ③ 丹羽孝、「日本の自由保育の歴史とその特徴」、釜山大学校幼児教育 COE 記念講演会 (研究代表者：林再澤釜山大教授)、2008.9.4、釜山大学校

[図書] (計 10 件)

- ① 宍戸健夫、浜田秀夫編著『ペスタロッチ・フレイベルと日本の近大教育』、玉川大学出版部、2009、PP288-304
- ② 丹羽孝、「韓国」、森真理、小田豊編『教育原理』、北大路書房、2008,pp87-95
- ③ 丹羽孝、「幼稚園教育課程と標準保育課程」、勅使千鶴編『韓国の保育・幼児教育と子育て支援の動向と課題』、新読書社、2008,pp67-92
- ④ 丹羽孝、「韓国幼稚園の史的展開」、勅使千鶴編『韓国の保育・幼児教育と子育て支援の動向と課題』、新読書社、2008,pp43-66

6. 研究組織

(1) 研究代表者

丹羽 孝 (NIWA TAKASHI)
名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・教授
研究者番号：10113325

(2) 研究分担者

宍戸 健夫 (SHISHIDO TAKEO)
大阪健康福祉短期大学・子ども福祉学科・教授
研究者番号：20086135

(3) 研究分担者

勅使 千鶴 (TESHI CHIZURU)
日本福祉大学・子ども発達学部・教授
研究者番号：20086010

(4) 研究分担者

亀谷 和史 (KAMETANI KAZUFUMI)
日本福祉大学・子ども発達学部・教授
研究者番号：00214552